

令和7年度 岐阜県農薬管理指導士認定試験問題

指示があるまで開けてはいけません

【 注 意 事 項 】

- 1 問題は、40問あります。
- 2 設問ごとに答えを1つ選んで、その番号を各問題右下の□に記入してください。
- 3 □に、選択肢の1～4以外の番号を記入した場合及び1～4の番号を2つ以上記入した場合は「無効」となります。
- 4 問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- 5 問題は、3ページから21ページまでです。落丁、印刷ミス等がある場合は挙手してください。
- 6 試験開始後、30分間は退場できません。また、退場した方は、再び入場することはできません。
- 7 退場するときは、問題用紙を閉じ、この面を表にして各自の机の上に置き、忘れ物のないように静かに退場してください。
- 8 下欄に「受講番号」及び「氏名」を記入して開始の合図までお待ちください。

受講番号		氏 名	
------	--	-----	--

【植物防疫一般】

問1 次の文章は、植物防疫について記述したものである。(ア)～(ウ)に入る語句の組み合わせとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

植物防疫とは、病害虫がまん延して農作物に被害を与えるのを防ぐための総合的、かつ組織的な施策であり、病害虫の今後の発生をデータ解析して予測する（ア）、農薬使用や耕種的、物理的手法等を利用した（イ）、海外からの病害虫の侵入及びまん延を防止し、農林産物を病害虫の脅威から守るため（ウ）が実施されている。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	植物検疫	病害虫発生予察	病害虫防除
2	病害虫発生予察	植物検疫	病害虫防除
3	病害虫防除	病害虫発生予察	植物検疫
4	病害虫発生予察	病害虫防除	植物検疫

解答

問2 病害虫発生予察情報に関する次の記述のうち、(ア)～(ウ)に入る語句の組み合わせとして、正しいものを1～5の中から一つ選びなさい。

- (ア)：重要な病害虫が大発生することが予想され、すぐにでも防除が必要なときに発表される情報
- (イ)：(ア)を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発生することが予想され、早めに防除したほうがよい場合に発表される情報
- (ウ)：それまで未発生 of 病害虫が発見されたり、重要な病害虫の発生状況が例年と異なるなど特異的な現象が認められたときに発表される情報

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	特殊報	注意報	警報
2	警報	注意報	特殊報
3	特殊報	警報	注意報
4	注意報	特殊報	警報

解答

問3 植物防疫に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農作物の安定的かつ効率的な生産のためには、農作物の病気や害虫は、全て薬剤で根絶すべきである。
- 2 岐阜県には病虫害発生予察事業を行う病虫害防除所は設置されていない。
- 3 無人ヘリコプターによる農薬散布は、絶対に行ってはいけない。
- 4 病虫害等の防除については、病虫害・雑草の発生を抑制する環境の整備に努め、病虫害発生予察情報等に基づき、防除の要否及びタイミングの判断を的確に行うことが重要である。

解答

【農薬取締法】

問4 次の文章は農薬取締法の第1条（目的）の部分である。空欄にあてはまる言葉の組み合わせのうち正しいものを1～4の中から選びなさい。

この法律は、農薬について（ア）の制度を設け、（イ）を行うことにより、農薬の安全性その他の品質及びその安全かつ適正な使用の確保を図り、もって農業生産の安定と（ウ）に資するとともに、国民の生活環境の保全に寄与することを目的とする。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	届出	販売及び保管の規制等	国民の健康の保護
2	登録	販売及び使用の規制等	国民の健康の保護
3	登録	販売及び保管の規制等	食糧の安定供給
4	届出	販売及び使用の規制等	食糧の安定供給

解答

問5 次の文章は農薬取締法の第2条（定義）の部分である。（ア）から（ウ）に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

この法律において「農薬」とは、（ア）（樹木及び農林産物を含む。以下「農作物等」という。）を害する菌、線虫、だに、昆虫、ねずみ、草その他の動植物又はウイルスの防除に用いられる（イ）、殺虫剤、除草剤その他の薬剤及び農作物等の生理機能の増進又は抑制に用いられる（ウ）、発芽抑制剤その他の薬剤をいう。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	農作物	展着剤	成長促進剤
2	園芸作物	殺菌剤	成長促進剤
3	農作物	殺菌剤	着色剤
4	農作物	殺菌剤	成長促進剤

解答

問6 農薬の登録に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 登録された農薬は登録申請の際に安全性が確認されているため、適用農作物等の範囲に含まれない農作物にも使用できる。
- 2 個人で農薬を輸入する場合は、農薬の登録を受けなくてもよい。
- 3 試験研究のために農薬を製造する場合は、農薬の登録を受けなくてもよい。
- 4 農薬の登録を申請すれば、農薬の登録が拒否される場合はない。

解答

問7 特定農薬に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 特定農薬とは環境や人体への安全性の面から特に注意を要する農薬である。
- 2 特定農薬は農林水産大臣及び厚生労働大臣が指定する。
- 3 特定農薬を製造するときは、農林水産大臣の登録を受ける必要がない。
- 4 専ら特定農薬を製造し、販売する場合は、農薬販売の届出は不要である。

解答

問8 農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 航空機を用いて農薬を散布するときや住宅地周辺で農薬を使用するときは、農薬が飛散することを防止するために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
- 2 農薬の使用回数のカウントには、種や苗への使用は含まれない。
- 3 ゴルフ場で農薬散布を行う者は、都道府県に農薬使用計画書を提出しなければならない。
- 4 飼料作物は、人が口に入れるものではないため、適用農作物の範囲に含まれていない農薬を使用することができる。

解答

問9 農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令において、農薬使用者が農薬を使用したときに帳簿に記載するよう努めなければならないとされている事項として正しいものを次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬を使用したときの天気
- 2 使用した農薬の単位面積あたりの使用量又は希釈倍数
- 3 使用した農薬の購入先又は譲受先
- 4 使用した農薬の最終有効年月

解答

【毒物・劇物取締法】

問 1 0 毒物及び劇物取締法第 8 条に規定されている毒物劇物取扱責任者の資格に関する次の記述について、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 18 歳未満の者であっても、都道府県が実施する毒物劇物取扱者試験に合格すれば、毒物劇物取扱責任者になることができる。
- 2 厚生労働省令で定める学校で、応用化学に関する学課を修了した者は、毒物劇物取扱責任者になることができる。
- 3 毒物又は劇物の販売業の店舗において、5 年以上毒物又は劇物を取り扱う業務に従事した者は、毒物劇物取扱責任者になることができる。
- 4 医師免許があれば、毒物劇物取扱責任者になることができる。

解答

問 1 1 毒物劇物販売業者が、毒物劇物営業者以外の者（法人を除く。）に毒物又は劇物を販売するとき、譲受人から提出を受けなければならない書面に関する記述について、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 書面の保存期間は、販売した日から 3 年間である。
- 2 毒物又は劇物の名称及び販売価格を記載しなければならない。
- 3 譲受人の生年月日及び職業が記載されていなければならない。
- 4 譲受人の氏名及び住所が記載されていなければならない。

解答

問 1 2 法第 12 条の規定により、毒物劇物営業者が劇物の容器及び被包に表示しなければならない文字として正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 「医薬用外」の文字及び白地に黒色をもって「劇物」の文字
- 2 「医薬用外」の文字及び黒地に白色をもって「劇物」の文字
- 3 「医薬用外」の文字及び白地に赤色をもって「劇物」の文字
- 4 「医薬用外」の文字及び赤地に黒色をもって「劇物」の文字

解答

【食品衛生法】

問 1 3 次の文章は、食品衛生法第 1 条（目的）の部分である。空欄にあてはまる言葉の組み合わせのうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

この法律は、食品の安全性の確保のために（ア）の見地から必要な規制その他の措置を講ずることにより、（イ）に起因する衛生上の危害の発生を防止し、もって国民の（ウ）の保護を図ることを目的とする。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	公衆衛生	飲食物	生命
2	健康増進	飲食物	健康
3	健康増進	飲食	生命
4	公衆衛生	飲食	健康

解答

問 1 4 食品衛生法に定められている食品の規格又は基準に関する次の記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 輸入食品は、食品の規格又は基準の対象外である。
- 2 残留農薬の規制には加工食品も含まれ、一律基準が適用される。
- 3 ポジティブリスト制度はすべての農薬が対象である。
- 4 残留農薬基準において、人の健康を損なうおそれのない量として定められている一律基準は 0.1ppm である。

解答

【農薬一般】

問 1 5 農薬取締法による農薬の定義として、次の記述のうち正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 家庭で使用する、ゴキブリや蚊などの衛生害虫を防除する薬剤は殺虫剤のため、農薬に該当する。
- 2 支柱や育苗箱などの資材の消毒に使用する薬剤は農業用のため、農薬に該当する。
- 3 天敵昆虫や作物の病原菌を抑える微生物は「生物」であり、化学物質ではないため、農薬ではない。
- 4 農薬登録が無く、「農薬として使用できない」や「非農耕地用」と表示されている除草剤を畑で農作物の管理に使用すると、農薬取締法違反となる。

解答

問 1 6 農薬の用途別分類に関する次の記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 殺虫剤は、農作物にとって有害な昆虫（害虫）を防除する薬剤を指すが、殺ダニ剤、殺線虫剤、貯穀害虫防除や畑地くん蒸に用いられるくん蒸剤は含まれない。
- 2 殺菌剤は、農作物にとって有害な菌（病原細菌、病原糸状菌）を防除する薬剤のことを指すが、ウイルスは菌ではないため、ウイルス病防除剤は含まれない。
- 3 ジベレリンなどの植物成長調整剤は、作物の品質や収量を向上させるため、植物の成長や発育をコントロールする薬剤であり、農薬に含まれる。
- 4 展着剤は界面活性剤の一種であり、主成分の効果を高める働きがあるが、それ自体には薬効はないため、農薬に含まれない。

解答

問 1 7 農薬の剤型別の使用方法に関する次の記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 粉剤は、粘土などの鉱物質微粉で希釈し、微粉（ $45\mu\text{m}$ 以下）となるように製剤化したもので、水に希釈して使用（散布等）する。
- 2 粒剤は、粘土などの鉱物質によって細粒（ $300\mu\text{m}\sim 1,700\mu\text{m}$ ）となるように製剤化したもので、有機溶媒に希釈して使用（散布等）する。
- 3 乳剤は、水に溶けにくい農薬原体を有機溶媒に溶かし乳化剤を加えた油状液体で、水に希釈せず、そのまま使用（散布等）する。
- 4 くん蒸剤は、農薬の有効成分、又は有効成分に由来する活性物質を密閉又はそれに相当する条件下で気化させて、殺虫・殺菌などに使用する。

解答

問 1 8 農薬に対する薬剤抵抗性・耐性に関する記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 薬剤抵抗性の発達を遅らせるためには、農薬を使用するたびに、粒剤やフロアブル剤など農薬の剤型を変えて使用することが重要である。
- 2 農薬は、それぞれの成分の作用機構によって、RACコードの分類に従い細かく分類されており、同一系統の農薬かどうかは各成分のRACコードを見て確認する。
- 3 薬剤抵抗性の発達を遅らせるためには、同じ系統の農薬を連続して使用することが重要である。
- 4 病害虫がある種の薬剤に抵抗性・耐性を獲得した場合、異なった作用機構の薬剤に対して抵抗性・耐性を得ることはない。

解答

【農薬安全性評価】

問 1 9 農薬のリスクに関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬は、その多くが生理活性を有する化学物質であるが、その使用によって、防除対象とする病害虫や雑草以外の作物、ヒト及び環境に悪影響を及ぼすことは全くない。
- 2 作物に農薬を散布する時には、農薬に触れたり吸入したりすること等による散布者への健康影響が考えられる。防護対策を講じても散布者の健康に重大な影響が懸念されるようでは農薬として使用することはできない。
- 3 作物に散布された農薬は、目的とする効果を発揮しながら、紫外線、雨水、作物体や微生物の働きによって分解・消失していき、収穫物に残留することは全くない。
- 4 ヒトに対する毒性が強い農薬とそうでない農薬を比較すると、同じ量の暴露であれば、影響の程度も同じである。

解答

問 2 0 リスク評価に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 土壤に落下した農薬が蓄積して悪影響を及ぼすことがないように、土壤中での分解・消失に関する試験に基づき、半減期が一定の期間（360日）を超えないよう設定されている。
- 2 ヒトや有用生物に対する毒性を調べるために行われる毒性試験は、短期間に多量の農薬を摂取した場合の毒性（急性毒性）のみ行われ、長期間に微量の農薬を摂取しつづけた場合の毒性（長期毒性、慢性毒性）については試験されない。
- 3 農薬の有効成分は、作物体や土壤あるいは水中で、光・熱・水分だけでなく微生物や作物体内の代謝によって分解・消失し、様々な物質（代謝生成物）に変化する。こうした代謝生成物についても毒性が調べられる。
- 4 有用生物に対する毒性試験は、ミツバチ、蚕を対象に行われているが、生活環境動植物（魚類、藻類、鳥類等）に対しては行われていない。

解答

問21 農薬の残留基準に関する次の記述のうち、(ア)～(ウ)に当てはまる語句の組み合わせのうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農薬の残留基準等で使用される単位「ppm」とは、100万分の1という意味であり、作物中の残留農薬では、1ppmは1kgの作物に含まれる(ア)の農薬に相当する。残留農薬基準値は、「許容一日摂取量(ADI)」と「急性参照用量(ARfD)」に基づいて定められており、ある農薬について、様々な食品からの長期的な摂取量の総量が(イ)の8割を超えないことと、個別の食品からの短期的な摂取量が(ウ)を超えないように設定される。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	1g	ADI	ARfD
2	1g	ARfD	ADI
3	1mg	ADI	ARfD
4	1mg	ARfD	ADI

解答

問22 農薬リスクの実態に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 残留農薬基準や登録基準は、相当の安全を見込んで設定されているが、市販農産物中の残留農薬は、基準値を超える非常に多い量が検出されることが多い。
- 2 通常の食生活において、農産物を洗ったり、皮を剥いたり、あるいは加熱して摂取するが、それらの過程でも農産物中の残留農薬は減少しない。
- 3 水田で使用する農薬、とりわけ栽培初中期に田面水に直接施用する農薬は、全て水田土壌に吸着され、施用後の水管理や降雨によって水田から流出することはない。
- 4 畑地や果樹園で使用する農薬や、ゴルフ場使用農薬については、飛散によって問題が発生したり、強い降雨が予想される直前に散布を行うと降雨により農薬の一部が流出することがあるので注意する。

解答

【害虫防除】

問 2 3 次の害虫と関連する作物名および加害様式の組み合わせのうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

【害虫】	【作物名】	【加害様式】
1 ハスモンヨトウ	ダイズ	外部から茎葉部を吸汁する。
2 トビイロウンカ	イネ	外部から茎葉部を吸汁する。
3 モンシロチョウ	ナス	幼虫が葉肉内に潜入する。
4 アブラムシ類	野菜他	地際部を加害、食い切る。

解答

問 2 4 次の記述のうち、()に入る語句として、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

昆虫が、自分の体外へ発散して同種他個体に生理的あるいは行動上の刺激を誘発する化学物質を()と呼び、雌雄の間で性的刺激を誘発する()を性()という。一部の害虫では性()をほ場に設置して害虫を誘引したり交尾を阻害することにより、害虫を防除するという利用法がある。

- 1 アロモン 2 カイロモン 3 フェロモン 4 ムシモン

解答

問 2 5 次の殺虫剤抵抗性対策に関する記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 殺虫剤抵抗性害虫が発生するしくみは害虫の中に殺虫剤に強い遺伝子＝抵抗性遺伝子を持つものが残るためである。
- 2 土着天敵や導入天敵を有効に活用するためには、天敵に影響のある殺虫剤を利用する。
- 3 連続した世代に同一の作用機構を持つ薬剤を使用する世代間連用は抵抗性の発達を妨げる。
- 4 対象害虫の殺虫剤に対する感受性は、卵→幼虫→成虫に至るそれぞれのステージによって変わらない。

解答

【病害防除】

問 2 6 病原菌の伝染方法や病気の発生に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ウイルス病の感染に、アブラムシやウンカなどの昆虫が関係することはない。
- 2 細菌の植物組織への侵入は、水孔や気孔などの自然開口部からに限られ、風雨や管理作業などによる傷口から植物に侵入することはない。
- 3 糸状菌は孢子などにより伝染するが、植物表皮組織を破壊して自力で侵入（角皮侵入）することはない。
- 4 温度や湿度は、病害の発生を左右する環境要因である。

解答

問 2 7 病害の防除に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 的確な防除対策を講ずる際に、病原体の伝染経路を知ることは重要ではない。
- 2 病害防除を行うとき、病気の原因菌の特定（診断）は重要である。
- 3 抵抗性品種や抵抗性台木の利用は耕種的防除法に該当し、圃場衛生と伝染源の排除は物理的防除法に該当する。
- 4 化学的防除法は、化学合成された農薬と微生物農薬を利用した防除法である。

解答

問 2 8 殺菌剤耐性に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 殺菌剤のうち、特異作用点阻害剤は一般的に耐性菌の発生リスクが高く、多作用点殺菌剤は一般的に耐性菌の発生リスクが低い。
- 2 殺菌剤の使用は、同系統の薬剤であっても防除効果が高い剤を連用するほうが良く、耐性菌も発生しない。
- 3 薬剤耐性菌が一度発生すると、その薬剤の使用を中止しても、耐性菌の発生比率が下がることはない。
- 4 耐性菌対策は、IPM（総合的病害虫雑草管理）の実現にとって必要不可欠な課題ではない。

解答

【雑草防除】

問 2 9 次の雑草のうち、多年生雑草を一つ選びなさい。

- 1 メヒシバ
- 2 スズメノテッポウ
- 3 スギナ
- 4 エノコログサ

解答

問 3 0 雑草の特性に関する記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 一年生雑草は秋冬期に枯れる雑草であるのに対し、多年生雑草は秋冬期も枯れずに生育し、翌年さらに増える雑草をいう。
- 2 雑草は形態によりイネ科やカヤツリグサ科など分類される事もあるが、イネ科は全て一年生雑草であり、カヤツリグサ科は全て多年生雑草である。
- 3 雑草は全て種子から発生するものであり、地下部にある根茎や塊茎から増える事はない。
- 4 雑草の発生時期は種類により決まっており、冬雑草や夏雑草に分類される事もある。冬雑草は 10 月～12 月に発生し 3 月～4 月に盛んに生育するのに対し、夏雑草は 3～6 月に発生し 9～10 月に結実する。

解答

問 3 1 除草剤に関する記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 除草剤には作物に害がなく雑草だけを枯らす選択性のものと、全てを枯らす非選択性のものがある。
- 2 全ての除草剤は生育中の雑草を枯らすものであり、雑草の発芽前に土壌表面へ散布して発生を抑える除草剤は存在しない。
- 3 除草剤は水に希釈して散布するため乳剤や液剤など液状のものばかりで、粒剤や細粒剤といった剤型はない。
- 4 除草剤は人間だけでなく作物への安全性も考慮して使用方法が定められているため、使用方法を守っていれば薬害の発生する事はない。

解答

【農薬安全使用】

問32 農薬に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬の使用量や希釈倍率は使用する際の目安であるため、病害虫が多発した場合は、ラベルに記載された使用量・希釈倍率より多い量や高濃度で使用してもよい。
- 2 同一の有効成分を含有する農薬であっても、農薬の適用農作物は製剤（剤型）によっても異なるため、使用する前に適用の有無を確認する必要がある。
- 3 総使用回数は、農薬の商品ごとに定められているので、有効成分名まで確認する必要はない。
- 4 農薬の容器・包装のラベルには最終有効年月の表示があるが、最終有効年月を過ぎた場合でも品質に問題がないことから、それを使用しないよう努める必要はない。

解答

問33 農薬に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 自家消費のために農産物を栽培し農薬を散布する場合には、「農薬を使用する者が遵守すべき基準」（農薬使用基準）に従う必要がない。
- 2 ゴルフ場での農薬使用者のみが、農薬使用計画書を提出する必要がある。
- 3 DDT、パラチオン等28種類の農薬は、「農薬の販売を禁止する省令」により販売が禁止されており、これらを使用することも罰則の対象となる。
- 4 農薬を使用した際に帳簿（使用記録簿）に記載するよう努めなければならない事項は、農薬を使用した年月日のみである。

解答

問34 農薬散布時の周辺住民への配慮及び飛散防止に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 公園・街路樹などで病害虫防除では、定期的な農薬散布を行うよう努める。
- 2 住宅地やその周辺等で農薬を使用する場合、事前に周辺住民に対して農薬の使用目的、散布日時、使用農薬の種類等について、回覧板、チラシなどで十分に周知することが重要である。
- 3 ドリフト（飛散）低減ノズルは、散布粒径が大きいいため、風が強い日でも十分な飛散低減効果が期待できる。
- 4 散布圧力を高めて使用すると、散布粒子が粗くなり飛散しにくくなるため、飛散防止対策として有効である。

解答

問35 農薬散布時の環境への配慮及び作物残留に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 すべての農薬は登録に際して、家畜、ミツバチや蚕などの有用昆虫、水域の生活環境動植物等への影響について、その安全性が確保されているため、それらに対して配慮する必要はない。
- 2 水田で使用する農薬は、散布後すぐに土壌に吸着されるため、散布直後に落水をしてもよい。
- 3 農薬が周辺農作物に飛散した場合でも、農薬は速やかに分解されるため特に問題が生じることはない。
- 4 ミツバチへの農薬による危害を防止するため、農薬使用者と養蜂家で農薬散布に関する情報を共有すること、養蜂家が巣箱を退避させること、農薬使用者がミツバチの暴露しにくい形態の農薬（粒剤等）を使用することは、いずれも有効な対策である。

解答

問36 農薬の安全使用に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬は直射日光の当たらない冷涼な場所で保管したほうが良いために、食品と一緒に入っているが冷蔵庫の中で保管したほうが良い。
- 2 農薬の散布液を調製する際、原液が手についてもすぐに洗い流せば問題ないため、ビニール手袋などを着用する必要はない。
- 3 保護メガネは、農薬散布時に噴霧された薬液が目に入らないようにするために着用することが大切であるが、農薬の散布液を調製する際は、薬液が飛散することが無いので着用する必要はない。
- 4 農薬散布時に使用するマスクには、農薬用マスク、防護マスク、吸収缶付き防護マスクなどがあり、使用する農薬の種類や毒性に合わせた適正なマスクを選択して、正しく着用することが重要である。

解答

問37 農薬散布時の飛散防止及び作物残留に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬の飛散には散布時の気温が最も強く関与し、風の影響を受けることはない。
- 2 農薬が周辺農作物に飛散した場合に、周辺作物の残留リスクを高める要因として農作物の種類が考えられ、一般的にいも類は葉菜類と比較してリスクが高まると考えられる。
- 3 無人航空機による農薬散布を行う場合は、できる限り高い位置で飛行することが重要である。
- 4 散布器具のタンクやホース内に薬液を残したまま別の作物に使用すると、不慮の農薬残留につながるおそれがあるため、農薬散布後にタンクやホースの洗浄をしっかりと行うことが重要である。

解答

【農薬管理指導士の任務】

問 3 8 農薬管理指導士に求められる資質に関する次の記述のうち、(ア) ～ (ウ) に入る語句の組合せとして、正しいものを 1 ～ 4 の中から一つ選びなさい。

農薬管理指導士は、その任務を確実に実行するために、常日頃から自らの資質の維持・向上に努めることが必要とされる。農作物などの (ア) に不可欠な農薬が、いかにしてその (イ) が確保されているかを理解し、農薬の適正使用に関する認識を深めた上で、農薬取締法など関係法規、農薬の特性、(ウ)、病虫害・雑草の発生生態や防除に関することなど、農薬全般に関する一般的な事項についても十分な知識を有することが求められる。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	生育	緊急性	農薬の販売方法
2	安定的な生産	安全性	農薬の適正使用方法
3	生育	安全性	農薬の販売方法
4	安定的な生産	採算性	農薬の適正使用方法

解答

問 3 9 農薬管理指導士に関する次の記述のうち、正しいものを 1 ～ 4 の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬管理指導士は、農林水産省が認定しており、全国共通の名称である。
- 2 農薬管理指導士には、農薬取締法に基づく調査権限がある。
- 3 農薬管理指導士は、他の農薬販売者、農薬使用者などに対し指導、助言を行い、農薬の安全かつ適正な使用の推進に当たることが任務である。
- 4 岐阜県が認定する農薬管理指導士の認定期間は 5 年間であり、継続して認定を受ける場合は、更新研修を受講する必要がある。

解答

【最近の動向】

問 4 0 農薬の再評価制度に関する次の記述のうち、正しいものを 1 ～ 4 の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬の再評価制度は開始されているが、再評価を終えた農薬はまだない。
- 2 農薬の再評価は、同一の有効成分を含む農薬について、農林水産大臣が初めて当該有効成分を含む農薬に係る登録をした日から起算して 1 0 年ごとに行われる。
- 3 農薬の再評価制度により食品衛生法に基づく残留農薬基準が再検討されることはない。
- 4 再評価の対象となった農薬が変更登録を受けた後は、容器の表示に記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法に基づいた使用に努める。

解答